

令和5年度 社会福祉審議会及び地域福祉専門分科会総括

●地域福祉専門分科会（令和6年2月21日開催）

- ① 重層的支援体制整備事業のPRとしてコミュニティ通貨「まちのコイン」を活用し、地域共生社会の啓発チラシを受け取った人や、イベント出展ブースにおいて地域共生社会に関するクイズコーナーに参加した人へコインの付与等を行う取組みを行っており、継続した事業PRと「まちのコイン」の活用を行っていただきたい。
- ② 高齢・障がい・こども分野を中心とした社会福祉法人や施設からなる社会福祉施設連絡会において、災害時の連携や困窮課題に対するフードバンクでの連携等を行っており、同連絡会を協働の基盤（プラットホーム）として引き続き行政と連携を強化していく必要がある。
- ③ 地域コミュニティの希薄化が課題となる中で、障がい者も住みやすい地域になってほしい。とりわけ災害時の対応において、避難所に行くまでのサポートについても考える必要がある。
全体としては、地区防災計画の策定にあわせ、同意者リストや個別避難計画を活用した避難時の声掛けや災害に備えた準備が進むよう取り組んでいただきたい。
- ④ 駅から直結の大型マンションにお住まいの方の町会加入率が特に低く、地域との関わりも少ないことが明らかとなっている現状を踏まえ、他市事例等も参考に集合住宅にお住まいの方が地域に馴染んでいけるようなコミュニティ作りの仕掛けが必要である。
なお、地域には人とつながりたい方ばかりでなく、距離を置きたい方もおられ、そういった方々も有事の際にはつながれる状態であることが大切である。
- ⑤ 地域では、こども会の休会や退会が増える中で、地域ニーズにあった連合こども会を作ったり、学校に出向いての学校支援ボランティア活動やこども食堂といったこども分野の取組みを多く行っている。その中で、こどもと顔見知りになり、気軽に声を掛けてもらう関係性づくりを行っているが、今後、さらにこども達の居場所づくりや学校との連携が求められ、民生委員・児童委員においても学校側のニーズ（下校時の見送りや挨拶運動といった人手が足りない部分のサポート）を担うことで、災害時や緊急時にもすぐに学校と連携が取れるように備えている。
また、地域福祉の視点からこども分野のことを考える（地域でこどもを育てる）ことが求められており、こどもが学校の先生以外の大人と触れ、しんどい時にSOSを出せる関係性を意図的に作り出していく必要がある。
- ⑥ デジタルサポーター養成講座は、キャッシュレス・ペーパーレス化に伴い世代間の情報格差が広がりを見せる中で非常に有効な取組みであるので、今後も引き続き取組みを推進していただきたい。

- ⑦ 高齢者を対象とした詐欺被害等の様々な周知啓発は、高齢者が集まる場だけでなく、外に出歩かずに地域から孤立している方に対してのアプローチも必要である。
- ⑧ 認知症高齢者や様々な課題を持つ方が増加する中、そういった方々も生活に溶け込む社会づくりが必要である。地域には様々な方が生活しており、中には干渉されたくない方もいる。そういった方々が心地良い距離感で、有事の際には助け合える関係性づくりがこれからの地域社会に求められる。

●社会福祉審議会（令和6年3月24日開催）

- ① 社会や地域で子育てできるよう、こども部局を中心に政策、地域づくりを考える必要があり、地域福祉計画で基本理念になっている「おせっかい」をどこまで浸透していけるのかが重要である。
- ② こどもがしんどそうな顔をしていたら声掛けをする、時には、こどもから声をかけてもらって元気をもらうこともあり、それはお互い様の関係であり、八尾の人は、心温まる人が多く、地域でこどもに関心を持つことが大切。また、こどもの頃からの消費者教育がすごく大事。
- ③ 地域ごとの課題に応じて、時には、少し不平等的な距離感をもってもらわないと、地域だけで平等に課題を解決するのも難しく、地域特性にあわせて個別に対応するという意味で平等にする、というような考えも必要である。
- ④ コロナ禍が過ぎたからオンラインを止めるのではなく、コロナ禍で得たスキルを最大限に活用していく。福祉の視点で大事なことは、できる人にはICTやAIをどんどん便利に手が届く範囲で活用いただき、行政や地域にも余力を生み出して、その余力をアウトリーチに充てるなどすることが大事。
- ⑤ 小・中学生の「自分たちのまちを自分たちで作っていきたい」の意見から、大人が支援して、こどもが企画・運営するイベントが盛況。こどもも担い手だと気付いた。
- ⑥ 関わってほしくない、ほっといてくれという人もおり、どのタイミングから助けが必要なのかが課題になっている。緩やかに見守ってくれる仲間、機関、企業、飲食店等を増やす必要がある。本人が支援を拒否したり、引きこもっていたとしても、どこかでつながれるような仕組みづくりが大切。また、福祉制度等の情報を知ってもらうことも大事。
- ⑦ 色々な問題を抱えている人との関わりを通して、同じような人を作らないようにしていくことは予防の視点が必要。そのためには評価体制をどうするかが大切で、地域福祉計画と連動させて、各分野の専門分科会を動かさないといけない。
- ⑧ 民生委員活動は、高齢者の見守りだけでなく、こども関係の活動も取り入れており、元PTA役員さんなどが興味を示して頂いているので若い世代の繋がりに期待している。また、民生委員の負担軽減策として、会議の持ち方の工夫、ICTの推進など、他市の事例も参考に考えていただきたい。